

令和2年度ビジョンセミナー

～「コロナ禍から学ぶ、都市の未来像」～

Webセミナー参加報告

- 日時 令和2年10月31日(土) 15:00～16:30
- 主催 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会(CLA)
一般社団法人公園からの健康づくりネット(PH)
- 共催 ランドスケープ経営研究会(LBA)
- 後援 公益財団法人都市活力研究所(UHI)
- 趣旨

世界の公園のCOVID-19対応と日本の公園の可能性、ランドスケープからのアプローチ「社会的コストを和らげる街の在り方」について、ランドスケープの視点から討論するべく、Web会議形式によるセミナーが開催された。

聞き手 田村 将理：東京工業大学(環境社会理工学院建築学系)塚本研究室
話し手 小野 隆：一般社団法人公園からの健康づくりネット業務執行理事
新堀 朋子：CLA技術委員会委員
鈴木 綾：WUP高齢者と公園委員会委員、LBA第2部会会長

世界の公園のCOVID-19対応と日本の公園の可能性

■概要

武漢から始まったCOVID-19の感染は、各国に拡大をみせ、ヨーロッパでは再度、都市封鎖が行われている状況にある。その中でロンドンでは、昨年、ナショナルパークシティを宣言し「市民が街をつくっていく」という活動のもと、周りの庭など緑にふれる行為が一般に行われてきた。一方、ニューヨークは、3月下旬から急激に公園利用が減っており、シンガポールでは、公園ベンチの使用禁止策が徹底された結果、公園利用の大幅な減少が起きている。

公園は様々な役割を担っており、閉鎖されたオフィスの前の公園では、食料の配給場所として利用される例もある。公園が効果を発揮するためには、行政がどのように考え、市民がどう使うかが重要となる。

日本では「3密」防止やステイホームの呼びかけがなされる中で、長距離の移動が制限され、多くの人々が自分の住まいや周辺地域で過ごす時間が増加した。結果、半分ぐらいの人が運動不足となり、生活習慣病の悪化が懸念された。

※子供やお年寄り、テレワーカーのケアに対してソーシャルディスタンス(社会的距離)ではなく、フィジカルディスタンス(物理的距離)を保つことで、公園はますます活用でき、みな元気になると考えている。

社会的距離は、ネットで繋がることでむしろ距離を縮め、物理的距離(2m)をとって公園を使う。世界都市公園会議の最高経営責任者であるニール・マッカーシーの声明では、これから公園が社会の回復に重要な役割を果たす、そこで我々(公園関係者)は、その手伝いをするのが求められている。自然に身を置くことが必要で、ストレス解消と健康上の利点を公園は価値として与えてくれると話している。

地元の公園は、たとえそれが30分間、座って人生について考えるだけであっても有効な、時間を過ごすための場所となる。日本の「公園」の在り方を見つめ直すことで、多くの可能性を見いだすことができる。

※日本では、ソーシャルディスタンスが良く使われますが、海外ではフィジカルディスタンスが一般的で、WHOも使用を推奨しています。

ランドスケープからのアプローチ「社会的コストを和らげる街の在り方」

■概要

海外からみたときに、日本の感染者は少ないと言われているが、公園のつくり方や都市のつくり方に違いがあったのではと考えている。1つは距離がとれたこと。もう1つは、日本人は間の取り方を知っていたのが要因といえる。この距離感覚が分かっている庭園や公園をつくってきた歴史があり、設計者の技術が、利用者にも分かってもらえていたという事実がある。

震災復興公園の整備は、世界的にも画期的であり、小学校と公園、民間施設と公園など、セットで公園が整備される動きが今後でくるものと考えている。オルムステッドが200年前から言っていたように、公園はリラックスできる場所、社会の中心的な場になる。

街の在り方を考える上で「ここちよさ(well-being)」と「しなやかさ(resilience)」が重要となる。「ここちよさ」はWHOの定義によると「すべてが満たされた良好な状態」であり、8歳から80歳ぐらいの人の全てが素晴らしい街は、誰にとっても素晴らしい街に違いないと考えている。一方で「しなやかさ」は国連の定義によると「国や集団が、外力による負の影響に晒されたときに、それに耐え、適応し、そこから回復する能力である」とされている。重心が低いと倒れにくいイメージであり、街でいうと地域という基盤が非常に強いところは、そのような特性を持っているといえる。

日本の社会保障費は、およそ30年間で3倍となり、税収入はほとんど変わらない中で、改めてお金の使い方や健康に対する予防を考えるべきである。公園や緑に再投資する仕組みをつくることで、総合的なコストを下げる事ができる。

これからの高齢化社会の中で、公園は今後の生活や介護の予防を担う場所として貢献する必要がある。一方で、若い人が公園の使い方を知らない面もあり「公園管理の活用」とそれを「利用者に理解」してもらうことが重要となる。

行政と利用者が向き合って、公園は、もっと自由に使っていんだよということを利用者知ってもらう。みんなが心地よくなること、これが街の在り方の総意といえる。

編集・構成 増田 将典

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部

私たちは、自然や緑と一体となった環境づくりに携わる職能団体です。

正会員	(50音順) 25社	連絡先電話番号
㈱ 荒 木 造 園 設 計	(072)761-8874	㈱ 辻 本 智 子 環 境 デザイン 研 究 所 (0799)72-0216
㈱ 荒 谷 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	(082)292-5481	㈱ 都 市 景 観 設 計 (06)6228-3388
㈱ エス・イー・エヌ 環 境 計 画 室	(06)6373-4117	㈱ 中 根 庭 園 研 究 所 (075)465-2373
㈱ オ オ バ 大 阪 支 店	(06)6228-1354	㈱ ニ ュ ー ジ ェ ッ ク (06)6374-4032
環 境 設 計 ㈱	(06)6261-2144	復 建 調 査 設 計 ㈱ (082)506-1853
㈱ 環 境 緑 地 設 計 研 究 所	(078)392-1701	ハ`シフィックコンサルタンツ㈱大 阪 本 社 (06)4799-7311
㈱ 環 境 研 究 所	(06)6306-2481	㈱ ヘ ッ ツ ズ (06)6373-9369
キ タ イ 設 計 ㈱	(0748)46-2336	㈱ L A T 環 境 ク リ エ イ ト (082)273-2605
㈱ 空 間 創 研	(075)823-6331	㈱ リ ア ラ イ ズ 造 園 設 計 事 務 所 (06)6941-1151
㈱ 現 代 ラ ン ド ス ケ ー プ	(06)6203-1270	㈱ 緑 景 (06)6763-7167
㈱ 公 園 マ ネ ジ メ ン ト 研 究 所	(06)6947-6522	
㈱ ス ペ ー ス ビ ジ ョ ン 研 究 所	(06)6942-6569	
㈱ 総 合 計 画 機 構	(06)6942-1877	
㈱ 地 域 計 画 建 築 研 究 所 大 阪 事 務 所	(06)6205-3600	
㈱ 地 球 号	(06)6945-7566	

協力会社 (28社)

下記の各社より、支部活動にご協力を頂いています。

公園施設		12社	連絡先電話番号	舗装資材		4社														
㈱	ア	ボ	ッ	ク	社	(06)6942-8466	㈱	佐	藤	渡	辺	近	畿	支	店	(072)920-6556				
上	屋	敷	工	業	㈱	(0776)56-2310	太	平	洋	プレコン工業	㈱	大	阪	支	店	(06)6344-6212				
㈱	コ	ト	ブ	キ		(06)4801-8265	太	陽	エコ	ブ	ロ	ッ	ク	ス	㈱	(06)6466-6751				
㈱	ザ	イ	エ	ン	ス	(072)439-4413	日	本	興	業	㈱	関	西	支	店	(06)7173-2790				
㈱	サ	イ	ト			(092)925-9858														
㈱	サ	カ	エ	西	日	本	支	店	緑化資材		3社									
タ	カ	オ	㈱	大	阪	営	業	所	グ	ロ	ー	ベ	ン	㈱	関	西	営	業	所	(079)878-6070
㈱	タ	ン	デ	ム		(072)986-1880	東	邦	レ	オ	㈱	(06)6767-1110								
㈱	中	村	製	作	所	(047)330-1111	㈱	虎	ノ	門	コーポレーション	(0725)32-0834								
日	本	ト	ッ	プ	工	業	㈱													
㈱	ラ	ス	コ	ジ	ヤ	パ	ン		石		材		1社							
H. O. C (エッチ・オー・シー)	㈱	(06)6395-2247					中	村	石	材	工	業	㈱	(06)6571-1206						
管理施設		1社																		
朝	日	ス	チ	ール	工	業	㈱	(06)6244-1910					施 <th colspan="2">工<th>1社</th></th>		工 <th>1社</th>		1社			
								㈱	橘	祥	建	設	(0794)89-8288							
水景施設		4社											照 <th colspan="2">明<th>1社</th></th>		明 <th>1社</th>		1社			
㈱	ア	ク	ア	ブ	ラ	ン	(06)6969-5831					大	光	電	機	㈱	(06)6222-6260			
㈱	ウ	オ	ン	(072)870-4764					印		刷		1社							
㈱	宇	都	宮	製	作	所	(06)6494-8997					㈱	ダ	イ	ビ	ス	(06)6312-6451			
日	之	出	水	道	機	器	㈱	(06)6446-2687												

事務局	〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11-1106 ㈱エス・イー・エヌ環境計画室 内 TEL:06-6373-4117 FAX:06-6373-4617	編集人	関西支部広報委員 委員長：荘田 隆久 副委員長：増田 将典 編集委員：福田 祥子 坂田 奈美子 友國 慎也 小野 隆
-----	---	-----	--

発行人	一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部 関西支部長 西辻 俊明	印刷	(株)ダイビス
-----	--	----	---------

発行	一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部	http://www.cla-kansai.jp
----	---------------------------------	--------------------------

2100
全国1000以上の公園と100以上の都市を繋ぐ

ランドスケープ コンサル

Landscape
Kansai

特集： 国際花と緑の博覧会

と ランドスケープコンサルタンツの 役割

PARK
JAM
EXPO'90 30TH Anniversary
2020
11/21(土)
花博開催30
in 花博
NO. 10:00
123 6:30
2021.01
冬号

発行：ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部
http://www.cla-kansai.jp

インクルーシブパークフォーラム2020

～動き出したスタンダード、「公園」のあるべき姿を語り合う～

オンライン参加報告

- 日時 令和2年10月30日(金) 10:00～12:00
- 主催 株式会社コトブキ
- ◆基調講演
：マウリシオ・ビヤレアル(PLACE PLA/ランドスケープアーキテクト)
：ディラン・モーガン(PLACE アーバンデザイナー)
- ◆ゲストスピーカー
：柳田 宏治/矢藤 洋子(みーんなの公園プロジェクト)
：村田 周一(高野ランドスケーププランニング株式会社 代表取締役)
- 司会進行：深澤 幸郎(株式会社コトブキ 代表取締役社長)

基調講演の概要

マウリシオ・ビヤレアル
ディラン・モーガン

ブレイグランドは、1800年代に誕生し、当初は、木製や鋼材が主流だったが、世界大恐慌、第二次世界大戦が起こり公園の存在が衰退の危機になった経緯がある。また、都市部の子どもの遊びの機会喪失やコミュニティの断絶が顕在化。社会的・経済的な格差が広がる中、誰もが遊ぶことができるユニバーサルデザインやインクルーシブの考え方が重要となってきた。

「ユニバーサル」と「インクルーシブ」の違いとして、「ユニバーサル」とは1つのサイズで多様な人が使用できること。「インクルーシブ」は個人に合わせたサイズアクセスビリティに理解が無いと成立しないこと。これがすべてのインクルーシブの基盤となっている。

インクルーシブパークには①物理的、②社会的感情、③感覚的刺激、④認識、⑤コミュニティの「5つ」のコンセプトが重要である。遊びの要素として、違う能力を持った子供たちが、隣同士で遊べるのが大事である。楽しくて興奮してしまう為、静かに1人になる場所をつくることも重要となる。公園全体が簡単に移動が出来ること、一人遊びや、周りからの見守り、一緒に遊ぶ等の社会的感情も大切である。

●HARPER'S PLAYGROUND

(ハーバース プレイグラウンド)

ポートランド市で最初に出来たインクルーシブパーク。PLACEが10万\$を寄付し、ポートランド市の生活の質を高めている。公園内はアクセスがし易く、ビジョンの違う環境を取り入れ、多様な遊びが展開されている。

●GATEWAY DISCOVERY PARK

(ゲートウェイ ディスカバリー パーク)

ポートランド市東部に位置する3エーカーの公園。アーティストと地域住民が協働した公園。地域の人々が当事者としての意識が高まっている。公園には2つのコンセプトを設定。

①ポートランド市は雨が多い為、「雨」をイメージする

②多様な人々との共生をイメージする「細胞」

多様な人が多様な体験や遊びが出来る公園として、地形の変化で人々を引き付ける。障害があっても自由に移動が可能で、健康者と一緒に遊べる公園である。

●松陰神社 パークス(東京都)

コトブキと共に松陰神社で公園ワークショップを実施した。周辺地域の様々な人びと公園の将来について議論を重ね、公園をリデザインしていく地域参加型となった。

ゲストスピーカーの講演概要

【柳田 宏治】

「インクルーシブ」と「ユニバーサル」の違いとしてインクルーシブとは、だれもが遊べ、だれも排除しない。ユニバーサルとは、どのようにするかの手法、工法である。物理的バリア、精神的バリアが生じ、特定の人々が排除されている現状がある。遊び場のユニバーサルデザインの5原則として①アクセスビリティ(公平にアクセスが可能で自立して遊ぶ環境)、②選択肢(様々なチャレンジの機会を提供)、③インクルージョン(誰もが遊び、多様な人が居る)④安心・安全(リスクテイクばかりしてもダメ)⑤楽しさ(自由に展開、親子が参加する)がある。1990年代後半に、ユニバーサルデザインが全国に展開されたが、公園を創る側、使う側にも情報と対話が不足していた。海外では、法律の後押しや地域住民の協力、企業・大学の研究開発、自治体のリード、当事者・NPOの活動がプロセスとなり、社会へと展開している。日本でも創り手が多様なニーズを把握しながら創ることが大切である。

【村田 周一】

「インクルーシブ」とは、「配慮」ではなく、「多様性の尊重と個性」である。公園とは、平等な参加、多様性の尊重、個性を展開しながら都市生活の課題を解決してくれる。

富士山こどもの国(静岡県)の設計を行った時、模型サインを設置し、公園の空間認識を図ったが、生まれつきの視覚障害の方は、空間能力の意思がないことまでわからず、反省した記憶がある。再整備時には、車いす利用者、視覚困難者に分けてチャレンジレベル1・2・3の設定を行い、レベルに合わせた計画を展開した。障害を個性として取り入れ、共有し尊重することで価値を高め、居場所を提供することが重要である。

編集・構成 荘田 隆久